

KAGAWA アンバサダーからのお便り～國宗奈緒美さん～

香川県の皆様、ハロー！ 在ロサンゼルスの國宗です。

今回は、私が居住する街の隣街であるPasadena市のコロラド・ブルバード（旧ルート66）の一角で毎年1月1日に、新年の祝賀行事の一つとして開催されるTournament of Roses Parade（通称：Rose Parade）とRose Bowl（ローズボウル）についてご紹介します。

ローズ・パレードは元旦（もし元旦が日曜日であれば、翌日、2日の月曜日）に開催されるローズボウル（大学対抗アメリカン・フットボールの試合の一つ）開始前に行われる大掛かりなイベント。「フロート」という、花・植物を含む自然由来の材料で装飾した車、アメリカ国内外からのマーチングバンド（1966年からは日本のマーチングバンドも参加：今年は大阪の箕面自由学園高等学校の「GOLDEN BEARS」が出演）、全米からの騎馬隊や馬術愛好家が参加して大賑わい。パレードと試合開始直前には、米空軍爆撃機によるフライオーバー（展示飛行）もあり、圧巻。

パレードの歴史は古く、1890年1月1日にパサデナの社交クラブ（バレー・ハント・クラブ）により発起され、当時は馬や馬車を様々な花や植物で飾りパレードを行い、その後に馬車競争やポロを始め各種大会が催されました。元旦が日曜日であった場合は翌日に振替と前述しておりますが、それには当時のアメリカでの風習が関係。当初の交通手段は馬や馬車によるもので、日曜礼拝の時に教会の外に繋がれている馬達を驚かせない様にとという配慮から根付いた慣わしです。

時代と共にパレードの規模が大きくなるにつれて運営も厳しくなり、運営資金調達のため1902年に“東西フットボールゲーム”と呼ばれていた大学対抗アメフト大会を開催。第2回大会は1916年の元旦に開催され、以来元旦に試合をするのが恒例となりました。また、ローズボウルの名前の由来となるローズボウル・スタジアムの建設が完成したのはその7年後の1923年。因みに、建設当初はパレード発起時の主役だった馬達にちなんで、馬蹄型でした。

さて、そんな歴史あるローズ・パレードは今年で137回目。パレードには毎年テーマが決まっており、2026年は“The Magic in Teamwork（チームワークの魔法）”。グランド・マーシャルは実業家で元NBA LA Lakersのマジック・ジョンソン氏。

パレードの要であるフロートは40～50台ほどあり、私が居住する街では1979年よりローズ・パレードにフロートを出しています。毎年秋にボランティアを募り、学校が冬休みに入った頃にはフロートの骨組みが作られ、地道な手作業で装飾に使用される生花は鮮度を保つために一輪ずつ保水キャップに挿し、その他の乾燥させた花材や自然由来の材料（海藻類、豆類、樹皮、羽根、動物の毛や苔等）は用途に合わせた大きさや量に準備されます。骨組みの表面は全て自然由来の物で覆うことが製作の大切な条件の一つ、SDGsです。

今年は私もボランティアに参加。フロートを飾りつけるぞ！と張り切って行ったものの、最初に割り振られたのは本当に地味な作業。スターチスの花の部分のみ（本当に花びらだけ）を

寒さで悴んだ手で切る。作業開始前、チームの担当者に「綺麗な装飾は地道な作業があってこそ。大企業の社長であろうと、有名人であろうと、全員この作業は手伝ってもらっているの。」と言われました。色々と考えさせられる言葉でした。でも、この作業を4時間近く続けていたら、流石にみんな、フロートの飾り付けをしたくてウズウズ。日付が変わろうとしていた頃にやっと本体の装飾に着手。とても良い体験が出来たのと同時に、灯台下暗しで知らなかったパレードの歴史を知る良い機会でした。

元旦。例年であれば、パレード開始時とアメフトの試合開始時の2回フライオーバー（展示飛行）を観られます。米空軍のB-2ステルス爆撃機が国歌斉唱のタイミングに合わせてパレード開始直前の午前8時頃にコロラド・ブルバード（全長8.9キロの大通り）の上空を1回目のフライオーバーする予定が、生憎の雨でキャンセル。いつも元旦の早朝に爆撃機2機（1機がメイン、もう1機は予備）が、私の住む街の上空で旋回して待機。その爆音を耳にするのが我が家恒例の元旦の朝なので、少しガッカリ。幸いなことに規則としてパレード自体は雨天決行。フロート装飾ボランティアの際に、統括している団体の方から教わった「パレードの雨天決行を遵守すればローズボウル（アメフトの試合）開始時には天候が回復する」という言い伝えを信じ、2回目のフライオーバーに期待。雨天決行は過去10回。

言い伝えどおりにローズボウル開始時間には雨は上がりました。フライオーバーの経路下にある近くのビュースポットに行ったがまだ雲が厚く、空は暗い状態。スタジアムでの国歌斉唱が終わる頃になっても、B-2爆撃機の音も影も見えず、2回目のフライオーバーもキャンセルかと絶望しかけた時、もしかしたら試合のハーフタイムの時に実施されるかもしれないという情報が入り、一度帰宅。

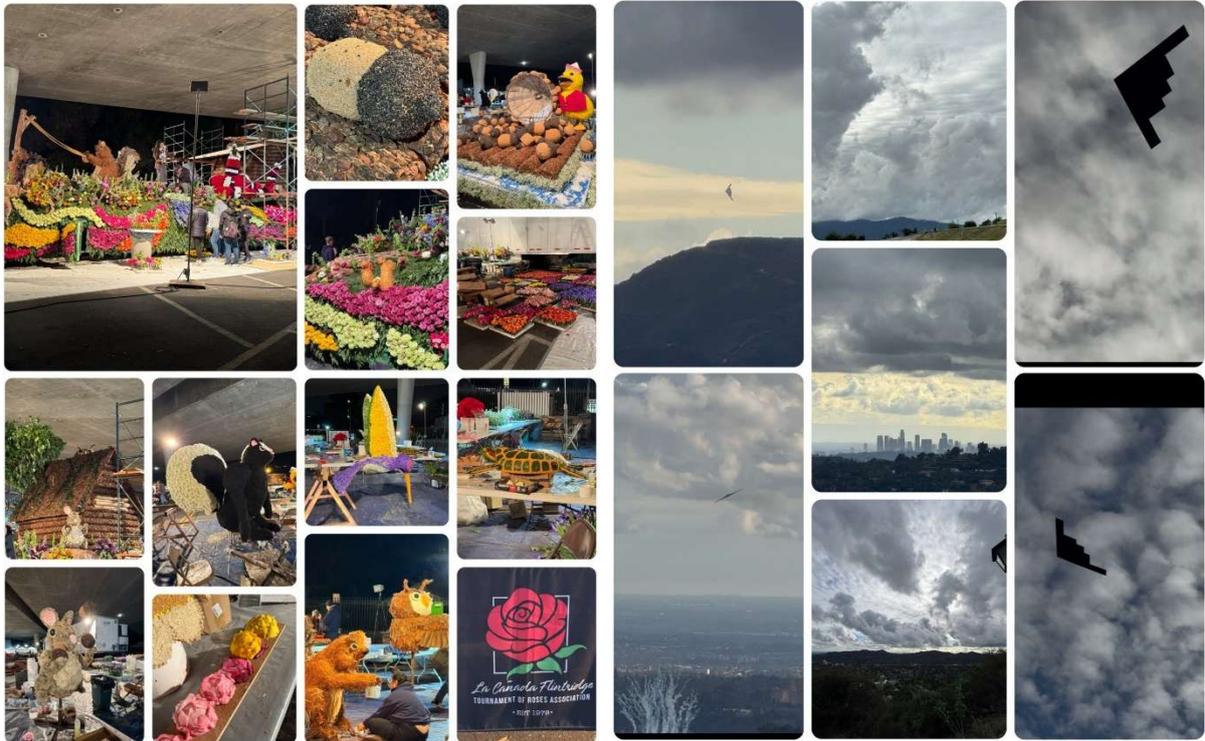
ハーフタイムが始まったのと同時に再度ビュースポットに出向いたものの、いつもの飛行経路は変わらず雲が厚く、危険な状態。B-2を一目見たいと集まっていた住人達が諦めかけた頃に、馴染みのある、あの音が！！その場に居合わせたみんなで四方八方目を凝らしてB-2のマンタのような黒い影を探していたら、誰かが「いたぞ！いたぞ！」と叫び、彼が指差す方向に目をやったら唯一、雲が切れて晴れ間が見えている遠い上空に黒い胡麻粒のような機体が……。音だけを頼りに、頭上を飛行するのを待つ事10分。どこからともなく、フワッと現れたのを目にした瞬間、居合わせた皆が一斉に「ハッピーニューイヤー！」と歓声をあげ、みんなやっと無事に新年を迎える事ができたと感じた特別な瞬間でした。

日本でもテレビで放送されるみたいなので、機会あれば是非ご覧になってみてください！

余談になりますが・・・

- ① ローズ・パレードのフロートは、毎年3名の審査官によって装飾の最終段階時（パレード開催2日前くらい）にデザイン・花材の活用・エンターテイメント要素を元に技術性、創造性、デザインを引き立たせるアニメーション性を重視し、二十数部門の賞の審査が行われます。
- ② 今ではローズボウルを始め、MLB、NASCAR、NFL等の開幕戦で米陸・海・空のいずれかの戦闘機若しくは爆撃機によるフライオーバーは常ですが、この風習が始まったのは1918年にシカゴで開催されたワールドシリーズ第1戦（ボストン・レッドソックス対シカゴ・カブ

ス)で野球のレジェンド、ベーブ・ルースが登板した試合という諸説があり、中でも航空ショーなどでは見る事が出来ないB-2爆撃機によるフライオーバーは誰もが楽しみ。私もその一人です。



ローズ・パレードのフロート作成現場

2026年元旦。左上：旋回中のB-2
 左下：ローズボウル・スタジアム上空で
 スタジアムからは花火
 右上下：頭上を飛行
 中央3枚：当日の空模様
 真ん中はロサンゼルスダウンタウン。



國宗 奈緒美 (くにむね なおみ) さん

両親が香川県出身。5歳の時にロサンゼルスへ移住。米 Pepperdine 大学卒業後、Pepperdine Graziadio 経営大学院卒業、MBA 取得。外資系証券会社、貿易会社勤務を経て、フリーランスとして独立。2018年より南カリフォルニア香川県人会会長。

◇KAGAWA アンバサダーについて

香川の魅力を世界へ発信するとともに、本県の諸課題に対する情報提供、活動、提言等を行っていただく大使です。主に世界を舞台に活躍している香川県出身者や県にゆかりのある方で、各界から候補者の推薦を受け、識者による選考後、知事が委嘱しています。

◇KAGAWA アンバサダーからのお便りについて

県民の方々に KAGAWA アンバサダー事業及び県の国際化の推進について、より理解を深めていただくことを目的に、世界を舞台に活躍されている KAGAWA アンバサダーの方々から在住国や御自身の活動等について御紹介いただくものです。